

きょうと福祉倶楽部だより

2022年 5号

向日市の市議会議員杉谷信夫さん（無所属）が、急な発熱でコロナ禍の医療体制の問題を身をもって体験されました。皆様の参考になると思いますので体験記を寄稿して頂きました。

体験記

急な発熱で入院！ コロナ？ 原因は予想外だった！

日曜に発熱—検査は翌日待ち

日曜日の夕食後、急に寒気がした。熱を測ると37.6℃。やばい！コロナだ。まず家族と離れなければ。いそいそと準備して、自転車で2分の事務所に移動し、ベッドに潜り込んだ。さて日曜夜に検査してくれるところは？乙訓保健所に聞こう。電話はすぐつながった。「発熱したんですが？」—「検査した方がいいですね。」—「今日、検査してくれるところありますか？」—「日曜なので、一般病院で検査できることはありません。」—やっばり。—「でもA病院かB病院なら、電話すれば検査してくれると思いますよ。」…やった！聞いてみるもんだ！と喜んだが、結局2つの病院とも、「日曜日はやってません。明日電話で予約してください」と断られてしまった。—「やっばり！」

隔離生活には社会のサポートが必要

朝まで待つしか無い。もしコロナだったら？誰かにうつした可能性は？心当たりの人や、参加した集まりの主催者に電話して事情を説明する。自分が重症化することは全く頭になく、そちらの方が心配になる。同居家族は全員濃厚接触者となるので、2人の息子は結果が判明するまで仕事に行けないし、もし陽性だったら更に最低4～5日はアウトだ。これは非常にマズイ！。わかっていたこととはいえ、現実自分が直面すると深刻だ。人によっては、このダメージの方が深刻かもしれない。誰もが安心して隔離生活できるように、経済的・社会的サポートが不可欠だと思う。

朝、2つの病院に電話した結果、翌日昼に結果が出るというA病院で検査を受けた。B病院は「2～3日かかる」との返事だった。いまだに「2～3日」もかかるのか？どうなってるの日本は？

検査の翌日、熱は39℃に達していた。絶対コロナだ、と覚悟を決める。正午すぎ、病院から「陰性」の電話連絡。よかった。でもこんなに発熱してしんどいのに「陰性でした」で終わり？ホントか？間違いじゃないのか？

発熱の原因は「薬害性肝障害」

私の知人が、発熱したけど「陰性」だった。でも後日受診したら原因は別の病気で、対応が遅れたため重症化して長らく入院した。発熱の原因を調べてもらわなくては。改めて病院に電話して、すぐに調べてもらった。その結果、医師から「肝機能の数値が異常だ」と告げられ、即刻入院となる。予想もしない展開だ。

4日間の入院・検査の結果、判明した病名は「薬害性肝障害」。原因は、発熱までの10日間ほど服用していた別の薬によるものだった。ありふれた薬だが、たまたま私の体に合わなかったようだ。そういうことは、「まれに有る」らしい。薬は怖い！

現在、発熱症状があると、PCR検査を受けて陰性を確認してからでないで診察してもらえない。そのため、真の病気の発見が遅れる可能性がある。私の知人のように、あわや命取りの可能性もある。

医薬品副作用被害救済制度の利用申請へ

私の体験を聞いた「きょうと福祉倶楽部」の有田さんが、この制度を教えて下さった。制度を運営する機構に問い合わせたところ、救済対象になるだろうとのこと。さっそく手続きを始めた。医療費の自己負担分の補償の他、数万円の手当が出る。過去5年までさかのぼって請求できるようなので、心当たりの方は、調べてみてはどうか（但し、審査に8～10ヶ月かかるそうです）。でも病院関係者は誰も教えてくれなかった！

以上、誰もが直面しそうなことなので、参考にして頂ければと思います。（杉谷）